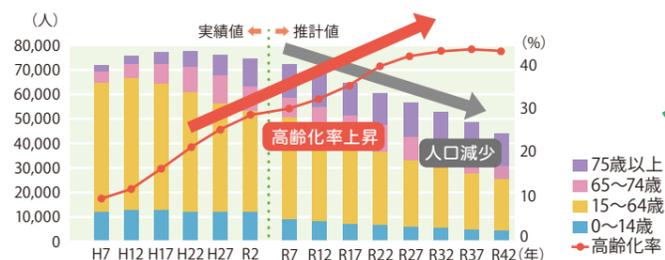


第5次 交野市総合計画

令和5(2023)～令和16(2034)年度

高齢化が進み人口が減るとどうなるのでしょうか…

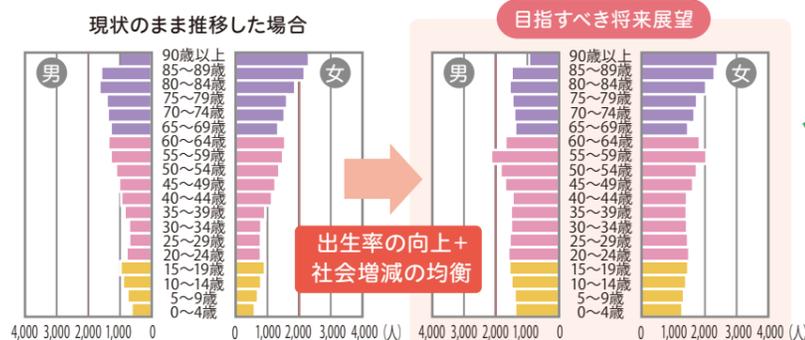


- 何も手を打たず、このまま時間が過ぎると、高齢者を支える現役世代や、子どもが減少し続けます。
- 人口が減少すると、地域の経済活動が低下し、商業施設の減少や公共交通機関の路線の廃止などが進み、更に人口が減少するという悪循環が起こります。
- これらに伴い、社会保障に係る負担の増加や、税収の減少による行政サービスの低下が懸念されます。

交野市がそんなまちならないために

みんなが住みたいまちに向けて、
協力しながら、人口バランスの良いまちを実現

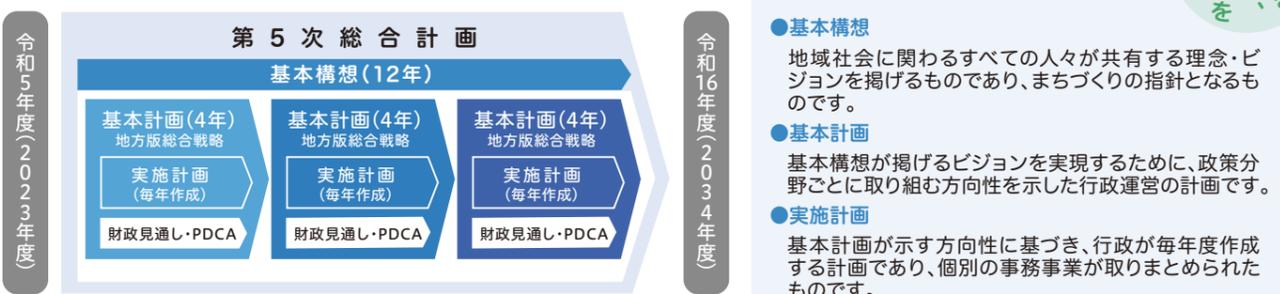
将来の姿 2060年



- 若い世代の移住・定住と、出生数の増加に向けた取組みを進め、バランスの取れた人口構成にすることで交野市を元気にします。
- そのためには、みんなでまちの課題に向き合い、協力しながら、住み続けたい、住んでみたいと思えるまちづくりを進めていくことが大切です。

みんなでまちづくりに取り組むためには、共通の「設計図」が必要です。

みんなでまちづくりの「設計図(総合計画)」をつくりました



設計図を見ながら、まちづくりを進めよう。



古くからの伝統文化と緑あふれる自然環境に恵まれ、安らぎのある雰囲気なか、新しい出会いや可能性が感じられるまちとして発展してきた交野市。

将来にわたって、みんなが住み続けたい、住んでみたいと思うまちを実現するためには、市民や団体、行政など様々な人々が、役割分担と協働でまちづくりを進めるための「設計図」が必要です。

交野市では、まちづくりの「設計図」として、令和16年度(2034年度)を目標年次とする第5次交野市総合計画を策定しました。

市民ワークショップと 基本構想審議会

- 基本構想は、幅広い世代の市民が参加した「市民ワークショップ」や、専門家や市議会議員など多様なメンバーで構成される「基本構想審議会」において、検討と議論をしながら作成しました。
- 「市民ワークショップ」では、本市を「こんなまちにしたい」等、日常生活で感じている思いをもとに、まちの未来について意見交換しました。「基本構想審議会」では、専門的な視点から、基本構想と基本計画の内容について議論しました。





まちづくりの基礎となる基本構想

世界規模で社会や経済が大きく変化しつつあり、まちの課題も複雑・多様化しています。これらのまちを取り巻く状況を踏まえ、「設計図」の基礎となる「基本構想」をまとめました。



設計図(総合計画)の詳細はこちら▶



世の中では、
いま、こんな変化が起きている。

交野市には、
いま、こんな課題があります。

人口

- 全国的に進む少子高齢化に伴い、社会経済や行政サービスへの影響が懸念される。
- 国は人口減少に歯止めをかけ、2060年(令和42年)に1億人程度の人口を目指す方針。

人口

- まちの強みや魅力に磨きをかけ、住み続けたいと愛着を持ち、誇りを感じるまちづくりにより、バランスのとれた人口構成を目指すことが必要。

経済

- 新型コロナウイルス感染拡大により経済状況は悪化。
- 労働生産性の向上と労働環境の整備が求められている。
- 「まち・ひと・しごと創生法」が策定され、産学金官などの多様な連携による地方創生が進む。

地域共生

- 地域社会のみんなが力を発揮し、互いに支え合い、住み慣れた地域で健やかに暮らし続けることができるまちづくりが必要。

安全・安心

- 地震や台風などの激甚化・頻発化、感染症の流行などにより、安全・安心な暮らしへの意識やニーズが高まる。
- 国土強靱化などの対策とともに、一人ひとりの備えが一層重要に。

安全・安心

- 自然災害などの様々なリスクに対し、市民・地域・事業者・行政の役割分担と連携・協力のもと、被害を最小限に止めることができるまちづくりが必要。

情報化

- ICTの普及や発展に伴う様々な社会変化への対応が求められている。
- あらゆる場面で「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」が加速化。

地域活力

- 市民や事業者などの活躍が促進される都市基盤整備により、将来にわたって地域の活力や快適な暮らしが維持されるまちづくりが必要。

地域社会

- 多様な価値観を尊重した地域社会の構築が求められている。
- 地域社会における人と人とのつながりの希薄化と共助の弱体化が懸念される。

環境・文化

- 「持続可能」という大きな潮流を視野に入れ、これまで大切にしてきた自然・生活環境や歴史・文化を次世代に引き継いでいくまちづくりが必要。

持続可能性

- SDGsによる持続可能な社会の実現、地球規模でのカーボンニュートラル・脱炭素社会の実現のため、市民・事業者・行政など様々なレベルで取り組むことが求められている。

行政

- 地域活動や市民活動の活性化とともに、多様な連携・協力関係を構築していくことが必要。
- 地域社会の変化や課題に柔軟に対応していくため、効率的・効果的な行政運営が必要。

交野市の課題解決に向けて設計図をつくりまします

【設計図の基礎となる基本構想】

まちの将来像

懐かしさと新しさが交わる

みんなのところが なご 和むまち かたの

本市がこれまで大切にしてきた、人と自然、古さと新しさ、多様な考え方などが交わり、調和し、認め合う価値観を強みとして、急速に変化していく社会にしなやかに、かつ大胆に対応しながら、みんなが穏やかな暮らしを営み続けることができる“こころのふるさと”としてあり続けます。

まちづくりの目標

みんなで子どもを育み、 子どもがのびのびと学ぶまち

- 豊かで思いやりの心が育まれ、主体的にのびのびと学んでいくまちを目指します。
- 若い世代にここで子育てをしたいと感じてもらえるまちを目指します。



みんなが互いを認め支え合い、 笑顔と元気があふれるまち

- 住み慣れた地域において、心も身体も健やかで充実した暮らしが実現できるまちを目指します。
- それぞれの価値観や生き方を尊重し、お互いに認め合い、共に笑顔で平和に暮らすことができるまちを目指します。



みんなが助け合い、 安心して住み続けられるまち

- 自然災害などの様々なリスクに対し、被害を最小限に止めることができるまちを目指します。
- 時代の変化を踏まえた助け合いの仕組みを考え、いつまでも安心して日常生活を送ることができるまちを目指します。



みんながつどい交流し、 活力が生まれるまち

- 将来にわたって地域の活力が生まれるまちを目指します。
- 生活インフラを適切に維持し、みんなが住み続けたいと思えるまちを目指します。



みんなで自然や文化を慈しみ、 次世代に引き継いでいくまち

- 自然・生活環境や、歴史・文化を次世代に引き継いでいくことができるまちを目指します。
- 環境負荷の少ない暮らしや活動を進め、未来へつなげるまちを目指します。



基本姿勢

多様な主体との協働

- 行政、市民、団体、事業者など、まちづくりに関わる多様な主体が、連携・協力することが大切です。
- 地域の多様な力を活かしたまちづくりに取り組みます。

持続可能な行政運営

- 将来にわたって必要な行政サービスを安定的に提供します。
- 財源や人材、施設などの資源を、最適かつ効果的に活用します。
- 行政事務の効率化を図るため、全庁的にDXを推進します。